



赤レンガ1号館の外観



赤レンガ1号館の2階は、現在会議室として利用されている



芸大の 歩き方

—上野の杜のキャンパスガイド—

第6回★赤レンガ館

歴史ゆかしい「上野」という場所に校地を構え、明治以来の伝統を誇る芸大の隠れた「名所」を毎回テーマを変えて紹介する。

歴史の目撃者

布施英利

芸大は、かつて美校・音校と呼ばれていた。東京美術学校、東京音楽学校だ。そういう長い歴史を実感したかったら、「赤レンガ」の前に立つのがよい。

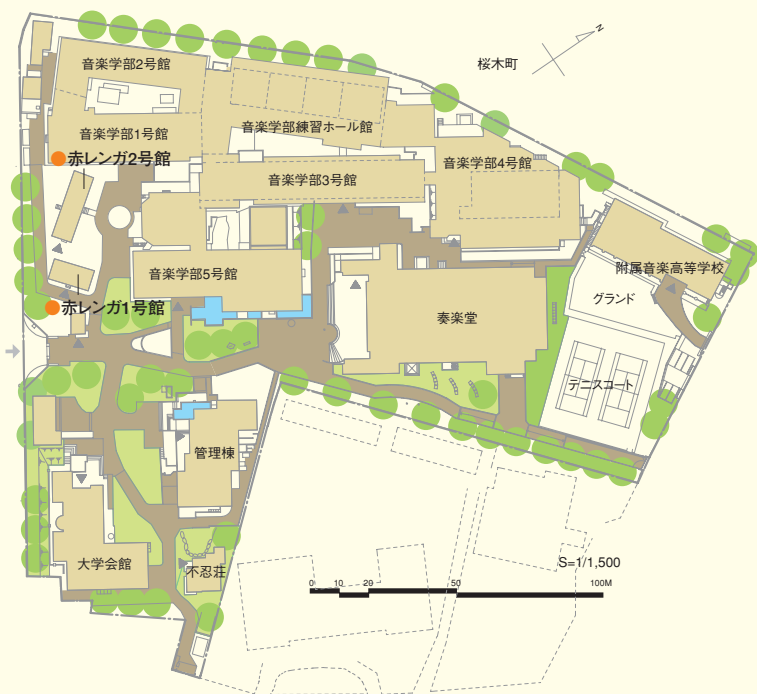
赤レンガは、音楽学部の守衛所の裏手にある。名前の通り、赤いレンガの建物だ。この建物ができたのは、一八八〇年（明治十三年）のこと。今から一二〇年以上も昔だ。

はじめ赤レンガは、現在の科学博物館の前身である、教育博物館書籍閲覧所として作られた。かつては森鷗外や樋口一葉も通ったらしい。その後は、美校の書庫、電話交換所、また芸大生の体育館、さらにはアトリエとして、多彩な時を送ってきた。まさに芸大の歴史の目撃者、生き証人である。

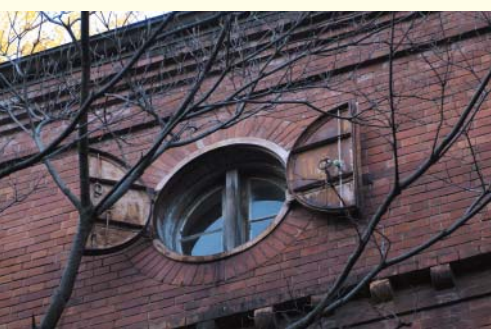
そもそもこの建物は、芸大とその前身である美校、音校よりも古い。東京芸術大学は、今年、創立一二〇周年を迎えるが、赤レンガはすでに数年前に一二〇歳の誕生日を迎えていた。

二〇〇五年には耐震工事も終え、新しく生まれ変わった。ここは今も廃墟ではなく、現役の建物として機能している。

赤レンガの赤色は、どんな赤か。それはご自身の肉眼で確かめてほしい。この建物の前にはイチヨウの大木がある。秋には葉が黄色に染まる。また横にはハゼの大木もある。こちらは赤く紅葉する。もちろん春と夏は緑色の葉が繁り、冬には枝のシルエットが赤レ



赤レンガ2号館の外観



ングの壁を横切る。それぞれの色との
 コントラストが美しい。
 芸大の片隅にあるタイムマシンのよ
 うな赤レンガ。そして今を生きる赤レ
 ング。
 これぞ芸大の大切なシンボルである。
 (ふせ・ひでと／美術学部助教授 美術
 解剖学研究室)